

P.84・85 紙でつくる

# 紙で誰よりも高く - 紙の特性を体験的に理解して -

<p><b>概要</b> (めあて、学びの目標を含む)</p>	<p>○試行錯誤しながら紙をより高く組み上げる体験を通し、「紙」の特性を理解するとともに、立体のバランスや美しさなど見方や考え方を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紙」は薄く、軽い工夫次第で自立可能であることを体験的に理解する。</li> <li>・「紙」を高く組み上げるために必要な切り込みの入れ方や組み方などを考え、工夫する。</li> <li>・制作過程で意図しない変化などに対して臨機応変に対応する。</li> <li>・構造のなかにある造形的な美しさや作者の表現の工夫を感じ取り鑑賞する。</li> </ul>
<p><b>評価規準</b></p>	<p><b>知</b> 制作活動を通し、「紙」の特性を体験的に理解している。</p> <p><b>技</b> 「紙」の切り込みの入れ方や組み合わせによる造形技法を身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p> <p><b>発</b> より高く組み上げる目標や条件を基に、バランスのとれた形体を考え、表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 目的と調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の工夫について考え、見方や感じ方を広げている。</p> <p><b>態</b> 「紙」の特性を体験的に理解し、より高く組み上げる表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

## ■主な準備物

【生徒】・はさみ

【教師】・制作用紙(名刺サイズ程度の画用紙、ケント紙など、1人あたり20~30枚程度)

※制作用紙は市販のものだけでなく、余ったスケッチブックや画用紙、ケント紙などを裁断機で切ったものでもよい。

## ■学習の流れ

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>P.84</b>▶特性を知るを参照し、「紙」のもつ特性について確認する。</li> <li>○ <b>P.85</b>▶組むやビルダーカードを使ってを参照し、基本的な切り込みによって立体を造形する方法を試す。</li> <li>○制作の条件を把握する。 【条件】</li> <li>・30分間で、誰が1番高く組み上げられるか。</li> <li>・接合は切り込みのみで糊やテープは使わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒にとって、「紙」は“身近な存在”である。しかし、「紙」の「縦目」と「横目」などを知る生徒は少ない。ここでは“たかが紙、されど紙”というイメージをもたせる工夫が求められる。</li> <li>○教師の実演により、まず3枚のカードで三角を組むなど、基本形を全員に体験させる。</li> <li>※開始から30分経過した時点での高さを競う。途中段階で高くとも終了時に自立していなければ認められない。</li> </ul>	態	【発言・活動の様子】
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な組み方を基に、制作を開始する。</li> <li>※ある程度高くなった段階で、倒れてしまった生徒は、倒れないようにする工夫を考えるとともに、制作した部分を再利用して再挑戦する。</li> <li>○残り時間も考えながら、バランスや安定性について確認し、必要に応じて補強する。</li> <li>○合図とともに全体で高さを比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10分程度経過の段階でうまく積み上げられている生徒の組み方や工夫をクラス全体に共有する。</li> <li>○闇雲に高くすることだけではなく、どのようにすれば確実に高くできるか、構造やバランスなども考えさせる。</li> <li>※時間経過や、「○○君は××の工夫をして現在トップ」「トップだった◇◇さんは、惜しくも倒壊…構造を考え直して再チャレンジ！」など全体に制作状況を共有する。</li> <li>○25分経過した時点で、残り5分を告げるとともに、慎重に仕上げることを促す。</li> </ul>	知 技 発 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>【制作中の作品】</li> <li>【制作中の作品】</li> <li>【活動の様子】</li> <li>【活動の様子】</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作した作品を並べ相互鑑賞する。</li> <li>○最高賞(1番高く組み上げた生徒)の決定。</li> <li>○各生徒が選ぶ「私の特別賞」として、「美しさ」や「おもしろさ」、「ユニークさ」、「努力」賞などについて意見交換する。</li> <li>○制作や鑑賞を通して考えたことや感じたことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高さは数値として比較できるが、そのほかにも、「美しさ」や「おもしろさ」、「ユニークさ」さらに「努力」などが感じられるものがないか互いに鑑賞させる。</li> <li>○各生徒に「私の特別賞」を1つ考えさせ、その理由などとともにワークシートに記入させる(自薦も可)。</li> </ul>	態 知 鑑	<ul style="list-style-type: none"> <li>【発言・意見交換の内容】</li> <li>【ワークシート】</li> <li>【発言・意見交換の内容】及び</li> <li>【ワークシート】</li> </ul>

### ◆指導のヒント

本題材は、高さを競うという生徒が見通しをもちやすい目標を設定し、生徒にとっても身近な存在である「紙」について、体験的にその材料の理解を促すものである。そのため、「高く組み上げる」という課題設定やでき上がる作品は、あくまでも「紙」の特性を知るための「しかけ」である。実際、名刺のような「紙」に切り込みを入れただけで高く組み上げることは中学生にとって思いのほか難しく、生徒も四苦八苦することとなる。しかし、周りの生徒の工夫や失敗なども見ながら、試行錯誤することそのものがこの題材の学びである。**P.84**▶特性を知るでは、「紙」の特性について掲載しているが、これらは実際に手で「紙」に触れて確かめなければ理解することは難しい。

### ◆指導のポイント

画用紙、ケント紙、スケッチブック…、美術では「紙の存在なくして授業はあり得ない」と言えるのではないだろうか。そんな身近な「紙」であるのに、生徒が「紙」について意識する機会は少ない。子ども向け雑誌の付録の紙工作や、遊びとしての折り紙の機会も減っているかもしれない。日常生活や遊びの中で「紙」の特性を体験的に感じ取り、その活用方法を身に付ける機会が少なくなっていることから、美術の授業で「紙」について意識的に取り組む必要性も高くなっている。

### 〔ワークシートの例〕

「紙で誰よりも高く」の学習を通じて感じたこと

1番高い\_\_\_\_\_さん  
(工夫・よかったところ)

私の特別賞『\_\_\_\_\_賞』  
\_\_\_\_\_さん  
(工夫・よかったところ)

組 名前